

目指す学校像	人間尊重を基盤とし、豊かな心とたくましい体を持ち、自ら学びを創造する子どもの育成
--------	--

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化・探究化の推進による主体的・対話的で深い学びの実現 (学力向上)
	2 教育支援、相談体制の充実、教育環境の整備による安心・安全な学校づくりの推進 (安心・安全)
	3 コミュニティ・スクール実施校(1年目)としての取組の推進 (地域に開かれた学校づくり)
	4 教職員が心身ともに健康で自信と責任をもって働ける職場環境(Well-being)の整備 (教職員の資質向上)

達	A	ほぼ達成 (8割以上)
成	B	概ね達成 (6割以上)
度	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数とも全国、市の平均正答率と比べ概ね良好な結果である。また、無回答率についても良好な結果となっている。 ○全国学力・学習状況調査では、「ICT機器の学習利用」の各質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均を上回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査では、特に、国語の「読むこと」及び算数の「データの活用」等、読解力に関する設問について課題が見られる。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間」について、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果をタブレット端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童に対して学期に1回以上、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②学校自己評価アンケート「めあてをもって取り組む」に係る項目において肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 				
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均と同程度である。 ○昨年度、施設設備の不備等が主な原因と考えられる児童のけがは発生していない。学校管理下のけがで医療機関を受診した件数は59件であった。 ○昨年度、下校中及び放課後における自動車との接触事故が3件発生した。(飛び出し) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍において、学習や生活の制限によるストレス、先行きの不透明感等が児童の心に大きな影響を与えている。今後も児童の状況を的確にとらえ、組織的に適時、適切に支援していく必要がある。 ○施設設備の安全点検を確実に行うとともに、児童が自ら危険を予測したり、安全に行動したりする力をはぐくむことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童へのきめ細やかな学習指導、教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①「人間関係プログラム」「『いのちの支え合い』を学ぶ授業」等の体験的な学びを系統的に行い、人とのかわり方、相談に係る知識、スキルの向上を図る。 ②アンケートを月1回実施し、要配慮児童の面談を実施する。必要時に校内委員会を開催し迅速な方針決定・組織的対応を行う。積極的に外部専門機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケートの関連する項目において肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価アンケートの関連する項目において肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 				
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、コミュニティ・スクール準備校として、準備委員会で目指す児童の姿について熟議を行った。「あいさつ」「コミュニケーション」「思いやり」「行動力」をキーワードとして確認した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に確認した目指す児童の姿について、学校運営協議会で熟議を深め、目標の共有、テーマづくり、家庭、地域、学校の役割分担及び協働体制の確立を行う必要がある。 ○テーマの実現に向けた方策を定め、取組の推進に向けた一歩を踏み出すことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能なコミュニティ・スクールの構築の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校公開、参観懇談、学校行事公開、学校Webページ、学校安心メール、YouTube等、多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」「教育活動」等の情報を積極的に発信して共通理解、連携を深める。 ②学校運営協議会で熟議を継続し、地域で共有できる持続可能な目標、取組を設定する。 ③コミュニティ・スクールについての情報を随時発信し、保護者、地域、教職員へ周知するとともに、役割分担、協働しながら取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケート「学校教育目標」「目指す児童像」に係る項目において肯定的に回答する割合が85%以上となったか。 ②熟議を通して、持続可能な目標、取組を設定することができたか。 ③学校自己評価アンケート「コミュニティ・スクール」に係る項目において肯定的に回答する割合が80%以上となったか。 				
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ね、GIGAスクール構想を推進してきた。 ○ベテラン、中堅の教職員が学年や分掌組織において核となり、学校の教育力の維持向上、教育活動の推進の原動力となっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用について、教員間でスキル、取組の差が見られる。継続的に学ぶことができる環境が必要である。 ○高学年教科担任制、STEAMS教育、SDGs教育等の新たな取組について研究、研修を進め、授業改善に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりがスキルアップを図り、力を発揮することができる教職員研修の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①校長、教頭による授業訪問を計画的に実施し、年次や経験等に応じて「新さいたま市の授業づくり」「キャリアnavi」等に基づいた指導助言を行う。 ②初任者研修、年次研修、学校課題研修、教育委員会指導訪問等を活用して教員同士が学び合う場を充実させる。 ③GIGAスクール構想の推進に向けエバンジェリストによる研修、授業公開等を実施し、ICTを効果的に活用する授業を探究、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「よい授業」アンケートにおいて学校の課題となる因子の得点が向上したか。 ②全教員が自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。 ③全教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用しているか。 				